會務報告

第24卷第6號　昭和13年6月

役員會

第5回理事會（昭 13. 4. 18）

出席者：辰馬會長，新井，平山兩副會長，金子，岡田，川口各理事，小野寺庶務主任，朝倉會計主任，糸川編輯主任

報告

(1) 第27回春季視察旅行を別紙（省略）の通り開催することゝせり。

(2) 土木協會よりの寄附金100円を受納せり。

議事

(1) 各種委員會事業の速進に關なては各關係部長の報告に依り善處することゝせり。

(2) オリンピック大會土木施設調査委員會委員に次の諸君を追加依嘱することゝせり。

吉岡計之助君　森田三郎君　竹内常八君　堀　信一君

(3) 5月中開催の諸會合日を別紙（省略）の通りとせり。

(4) 入退會の件

株式會社芦田工業所外8社を特別員に，右近保太郎君外9名を會員に，阿部雄飛君外42名を准員に，鹿子木功君外18名を学生員に入會を承認し，准員藤田浩藏君を會員に，学生員阿子島忠夫君外166名を准員に転格を承認せり。

(5) 以上の外次の件を次回理事會に於て協議することに申合せり。

(1) 明治の初め我國に招聘せる外人の計畫事業を纒める委員會を設置の件

(2) 土木学會支那視察員派遣の件

第6回理事會（昭 13. 4. 28）

出席者：辰馬會長，新井，平山兩副會長，高橋，岡田兩理事，小野寺庶務主任，朝倉會計主任，糸川編輯主任

報告

(1) 關西支部内に土木事業計畫審査委員會部會その他の委員會設置を報告せり。

議事

(1) 中北支視察員選定に就ては次回理事會に於て更に協議することゝせり。

(2) 中北支視察員派遣に關する關西支部の申出に就ては次回理事會に於て協議することゝせり。

(3) 財政調査委員會の事業は一応終了を見たるを以て解散することゝせり。

(4) 我國招聘外人の遺功資料調査に關しては那波前會長と打合せの上理事會に諮ることゝせり。

(5) 土木学會文化映畫委員會の提案に係る各種土木工事の映畫作製方を別紙（省略）の諸方面に慫慂することゝせり。

(6) 同上土木工事映畫を別紙（省略）の諸方面より借入れ試寫することゝせり。

第7回理事會（昭 13. 5. 9）

出席者：新井副會長，高橋，山崎，岡田，川口各理事，中村書記長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任，糸川編輯主任

報告

(1) 關西支部各種委員會議事を報告せり。

議事

(1) 中部支部設立承認並に中部支部長を發會式當日會長より依嘱の件及入會金補助の件は發起人より書類に依る正式申請を俟つて決議とすることゝせり。

(2) 日本土木建築請負業聯合會内に設置せる鉄鋼使用統制委員會の本會顧問の件は次回に協議することゝせり。

(3) 國際道路會議出席の下記兩君に對し本會代表を兼ね出席方依頼することゝせり。

山本　亨君　　長久保俊夫君

(4) 支那土木事業視察員派遣費は事業資金の内より充當することゝせり。

(5) 昭和9年10月以降の土木工学論文抄録作成に就き次回協議することゝせり。

第3回常議員會（昭 13. 4. 18）

出席者：辰馬會長，新井，平山兩副會長，金子，高橋（嘉），山崎，岡田，川口，伊藤，海老，佐野，村橋各常議員，岡野青山兩前會長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任，糸川編輯主任

報告

(1) 第27回春季視察旅行を別紙(省略)の通り開催することゝせり。

(2) 時局對策委員會委員依囑(第4回理事會議事參照)

(3) オリンピック大會土木施設調査委員會委員追加依囑(第5回理事會議事參照)

(4) 入退會別紙(省略)の通り承認せり。

議 事

(1) 日本工学會より申出でに依る同学會理事長候補者3名は次の諸君を本會より推薦することゝせり。

古川阪次郎君 岡野 昇君 中川吉造君

(2) 工学協會幹事野村龍大郎君より本會事業資金の内へ100円寄附申出の處之を受納することゝせり。

(3) 時局對策委員會の要綱を別紙(省略第4回理事會議事參照)の通りせり。

(4) 時局對策委員會委員長に中川吉造君を依囑することゝせり。

總務部記事

第12回土木学會文化映画委員會(昭 13. 4. 11)

出席者: 金子總務部長, 金森委員長, 青木, 澤, 五十嵐, 片平各委員, 小野寺庶務主任

(1) 金子總務部長の勸告により本委員會と事業中委員を常置すべきものと, 然らざるものとを次の如く區別せり。

(イ) 常置すべきもの: 本委員會と各部中ニュース部, 普及部, 考査部は存置すべく其の事業内容は大体次の如し。

ニュース價値ある工事の調査, ニュース會社に對する土木ニュースの提供, 一般公開の土木に關係ある映畫の批判, 土木に關する映畫の調査(憲帳作製), 映畫による土木事業の記錄, 土木学會映畫會開催のための機關たらしめること, 其の他

(ロ) 臨時的のもの: 製作部及指導部は必要に応じて委員を設けその事業を遂行す。本年度中に行ふべき事業次の如し。

一般より土木に關するシナリオを募集す, 募集せるシナリオにより商業映畫を作製せしむ, 土木学會として文化映畫を作製す, 其の他

(2) 土木工事, 各現場に, 映畫による記錄を勸誘することゝせり。

第13回土木学會文化映畫委員會(昭 13. 5. 9)

出席者: 金森委員長, 青木, 片平, 五十嵐各委員

(1) ニュース映畫會社より土木工事關係ニュース映畫を購入し, 各年中の世界に於ける土木工事のニュース記錄を編輯する事

(2) ニュース實寫聯盟に對しニュース價値ある工事場所を通知し, ニュース撮影を慫慂する事

(3) 委員に左記各氏を追加依囑する事

瀧尾達也君 (東京市役所)

横田周平君 (内務省土木試驗所)

(4) 委員, 大石義郎君, 草間康二君転任に就き解囑する事

(5) 左記到着映畫に就き調査せり

貴き犧牲, グレーンエレベーター・ビン新築工事

第7回企畫委員會(昭 13. 4. 13)

出席者: 米元委員長, 高橋(嘉), 德善, 佐野, 小林, 須之内, 松井, 五十嵐, 瀧山各委員, 金子總務部長, 藤本書記

米元委員長より第1回以來の委員會議事の經過説明あり次で今後の問題として本委員會の存否如何に就き金子部長並に各委員の意見交換あり結局本問題に關しては委員長に一任することゝせり。

第1回時局對策委員會(昭 13. 5. 5)

出席者: 中川委員長, 伊藤, 内海, 岡田, 金子, 川口, 菊池, 久保田, 高橋(嘉), 高橋(三), 永井, 町田, 宮本, 山口各委員, 辰馬會長, 新井副會長, 山崎理事, 中村書記長, 小野寺庶務主任, 糸川編輯主任

辰馬會長より本委員會設置に就て又中川委員長及金子幹事より議事の進行に關し希望を述べ, 協議の結果各委員の意見に基く申合せ事項次の如し。

(1) 支那に進出せる主要土木技術者の動靜を時々委員會に報告することゝし其の擔任を次の委員に依頼することゝせり。

内務省 金子委員, 鉄道省 岡田委員, 其の他 永井委員

(2) 内地に於て技術者普通教育擴張の必要性研究の資料に專門学校以下の卒業生數を調査することゝせり。

(3) 交通大学の設置案に就て研究することゝし參考資料として滿洲國所在工学院に就て在校生徒數

(滿人, 日人)を調査することゝせり。

(4) 学會より支那に視察員を急速派遣に關しては中支方面は田淵君及加賀山君, 北支は三浦君(打合濟) 伊藤君に對し連絡をとることゝせり。

(5) 本委員會に於て協議すべき重要問題に就き各委員より腹案を持寄ることゝせり。

(6) 委員の追加を必要とする場合は次回までに持寄ることゝせり。

(7) 本委員會は對支技術聯盟と緊密なる連絡を採り目的達成に最善を盡すことゝせり (図-1)。

図-1.

午 餐 會 (昭 13. 4. 12)

滿鉄佐藤応次郎君, 杉廣三郎君, 桑原利英君の來京を機會に丸ノ内會館に於て午餐會を開催し北支及滿洲に於ける土木施設に關し同君等の談話を拜聽意見の交換をなせり。

出席者: 佐藤應次郎君, 杉廣三郎君, 桑原利英君, 辰馬會長, 新井, 平山兩副會長, 金子, 高橋, 山崎, 岡田, 川口各理事, 阿曾沼, 淺間兩常議員, 中川, 那波, 名井, 眞田, 青山, 井上, 大河戸前會長, 井上, 內田, 金森, 鈴木, 谷口, 古川, 山田, 成瀬各東亞調査委員, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任, 糸川編輯主任

午 餐 會 (昭 13. 4. 18)

鉄道省關係の土木学會地方委員を丸ノ内會館に招待し午餐會を開催せり (図-2)。

出席者: 井上, 後藤, 釘宮, 渡邊, 大島, 川合, 小早川, 岡崎, 柳ケ瀬, 青山, 山口, 山中, 三浦, 沖鹽各工務局關係, 菊池, 小出, 上山, 瀧淵, 高井, 星野, 小林, 出島, 宮本, 稻石, 佐藤, 岡田(實), 倉田各建設局關係, 堀尾監察官, 辰馬會長, 新井, 平山兩副會長, 金子, 山崎, 岡田, 川口各理事, 阿曾沼, 淺間, 伊藤, 村橋各常議員, 岡野, 那波, 青山, 大河戸各前會長, 小野寺庶務主任, 糸川編輯主任

図-2.

午 餐 會 (昭 13. 4. 21)

折下吉延君の來京を機會に丸ノ内會館に於て午餐會を開催し中支視察員派遣に關し同君の談話を拜聽意見の交換をなせり。

出席者: 折下吉延君, 辰馬會長, 新井, 平山兩副會長, 金子, 山崎, 岡田, 川口各理事, 大河戸前會長, 米元晋一君, 春藤眞三君, 櫻井英記君, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任, 糸川編輯主任

第79回講演會及映畫會 (昭 13. 4. 15)

會　場: 帝國鉄道協會

講　演: 中支の水道に就て
　　東京市技師　岩崎富久君
　　最近の北支鉄道に就て
　　鉄道技師　兒島重次郎君

映　畫: 分岐器の製作 4 卷　　鉄道省工務局編輯
　　日本營見 3 卷　　國際觀光局編輯

來會者: 150 名
　　映畫終了後有志晩餐會を開催せり
　　出席者 23 名

經 理 部 記 事

第8回土木学會財政調査員會 (昭 13. 4. 25)

出席者: 前川委員長, 河口, 高橋(三), 萩原, 堀各委員 高橋經理部長, 小野寺庶務主任, 朝倉會計主任

議　事

(1) 本委員會は土木学會の財政問題に關し善處するため其の方策を攻究し曩に未納會費の整理，特別員入會の勸誘等を會長に提議し，結果は既に相當なる成績を擧げ得るに至りたり，依て理事會の意向により本委員會の事業を打切ることに申合せたり。

編輯部記事

第5回編輯委員會（昭 13. 5. 4）

出席者：山崎委員長，伊藤(信)，大岡，太田尾，風間，佐藤，富山，野口，廣瀬，安宅各委員，糸川，中川編輯囑託

協議事項

(1) 第24卷第5號所載原稿の謝禮を決定す

(2) 第24卷第6號へ下記を追加す

工事寫眞：吾妻川原町發電所工事，德島縣日開谷橋

彙　報：鉄道防空資料

抄　錄：故 L. N. G. Filon 教授，導管の抵抗に依る圧力傳達の遲れ，波動運動方程式に對する Whittaker 氏の解法に關する一考案，開水路の水理（Chézy 及 Bazin の C），Hawaii の長径間ラーメン橋，Salt Lake 航空港，フランス堰堤工事に於ける進歩の段階，水理に關するノモグラム，1936年中の応用力学，コンクリート橋梁及構造物に關する主なる文獻（其の2），Parker Dam の掘鑿工事，眞空コンクリート。

時　報：天王寺驛改築工事概要，都市計畫關係決定事項

會員の頁：スエズ運河を語る

(3) 第24卷第7號登載原稿を次の如く決定す。

彙　報：図表による鉄筋コンクリート煙突筒体の靜力学計算（准，中村清），流速計の新考案（會，加賀美一二三，古屋直臣），支那歴代に於ける河官並に河渠管理に就て（會，工，淺野好）

抄　錄：最近のドイツに於ける圧氣潛函工，單及複鉄筋矩形断面桁に於ける補强初期応力の效果に就て，鉄筋コンクリート構造に於ける高次方程式の近似解法に就て，水理研究委員會報告，無限の深さを有する彈性基礎上にある對稱荷重を有する薄板の平衡，イタリーの道路及交通標識，芝罘港，合衆國開墾局ワシントン本部の機構，サンフランシスコ下水處分場の新設計，土の安定化，土堰堤下のグラウチング

(4) "內外文獻" 欄を "會員の頁" の次に新設することに決定す。

調査部記事

第16回請負工事契約書調査委員會（昭 13. 4. 20）

出席者：阿曾沼（代三浦），稻葉，上村，菅野，近藤，堀尾各委員，岡田調査部長，小野寺庶務主任

議　事

(1) 第3讀會に於て審議した契約書案を印刷し4月13日各委員へ配布せり。

(2) 配布せる契約書案に對し菅野委員及岡田部長より修正意見あり討議の結果之を印刷して全委員に配布し更に意見を求むることゝせり。

法制部記事

第6回土木士法案調査委員會（昭 13. 4. 12）

出席者：眞島委員長，樺島，神原各委員，野原幹事

議事報告

(1) 前回に於て第一讀會を終へたる土木構造士法案第二讀會を開催し逐條審議す。

(2) 本法案名稱は別紙理由書の通り構造士法案と改むることに決定す。

(3) 逐條審議の結果一部字句の修正を行ひ更に附則2項を追加し本法案を別紙の通り決定し會長に報告することゝす。

(4) 本法案提出理由書案審議の結果各委員の意見を追加改訂を加へることゝし野原幹事に於て之を調製次期委員會に図ることに決定す。

立案趣意並法案名稱変更理由書

(1) 國運の進展に伴ひ構造技術を必要とする事業は國防に，產業に，厚生に，或は災害防止に益々多きを加へ之に投下さるゝ經費は年に莫大なる額に上り施設の適否は直に重大なる影響を生じ一朝にして多數の人命を損傷し巨額の富を荒廢に委せしが如き事例も亦少しとせず畢竟之等は技術家の選任宜敷を得ざる結果に基くもの多かるべく社會組織の益々繁雜を加ふる將來に於ては豫め本案の如きを設け技術家の素養，經驗，人格の向上を図り併せて社會の認識利用を容易ならしめ責任の所在を明かにし以て穩健適切なる計畫の下に事業の円滑遂行を図り遺憾ならしめんとするは緊要事にして特に各般に亘る構造技術に取締規程乏しき今日は勿論之斯る規程の制定は日新月歩の技術に對し將來共甚だ困難にして假令ひ實現するとするも大要に過ぎざるべく依然適切なる施設は主として技術家の手腕に待つべきものと考へらるゝにつき一層其必要ありと認めらる。

(2) 法案の名稱は他に類似の建築士法案もあり特に適切なる名稱を撰定すべき要ありと認め左記の通り審議決定せり。

（イ）土木士なる名稱は街頭の土木師或は請負師と同視さるゝ嫌あり重大なる責任を有する本士の名稱としては恰も辯護士を代言人とする如く侮稱となる恐あれば面白からず之等と明確に區別する必要ありと認めらる。

（ロ）從來慣用せる土木なる用語は現在各大学各專門学校土木学科の分科內容に徵するも之が總稱として適切なる用語とは思はれず寧ろ總括的には構造工学（バウテクニーク）と改稱すべきものにして夫が用途に依り河川，港灣の構造技術ともなり鉄道，道路，橋梁の構造技術ともなり文化の進展に從ひ益々多岐となるは近き過去迄考へられざりし水力電氣か一分科として數へらるゝに至れるが如く今日の所謂土木工学の範圍は歳と共に膨脹複雜となるに相違なきも而も其の共通にして根柢をなすものは構造技術に外ならず，又吾々の技術的領域も之以外になく今日も將來も之に限定して差支なしと思はるゝにつき他に適當なる用語なき限り之を採用し前項の區別を明かにすることゝせり。

（ハ）尙本案の第一讀會に於ては假りに土木構造士として一応の審議を終はりしも最後の會合に於て此の名稱は構造技術の範圍を自ら求めて狹める嫌あり構造技術に關する限り一切を包含し過去に於ける如く將來に於ても益々之が發展に努力し其の本領を明かにすべきであると認め玆に本案の名稱を採用し稍もすれば內容に誤解ある今日の土木なる語を構造士の上に加へ其の當然の資格を限定せるか如き感を世人に與ふることを避くることゝせり

構造士法案（昭 13. 4. 12, 2讀會）

第1條 構造士は構造士の稱號を用ひて事業主の委囑に因り左の工事の計畫，設計，工事監督，調査又は鑑定を業務とするものとす。土地の加工及土地に定着し又は接觸して構築する工作物にして構造技術を必要とする工事

第2條 左の條件を具ふる者は構造士たる資格を有す

1. 帝國臣民又は主務大臣の定むる所に依り外國の國籍を有するものにして私法上の能力者たること
2. 構造士試驗に合格し5年以上第1條第2項の設計監督に關する實務に從事したること

前項第2號の構造士試驗は專門学校令に依る土木学科と同程度に於て施行す

詳細は勅令を以て之を定む

第3條 左の各號の一に該當する者は前條第1項第2號の規定に拘らず構造士たる資格を有す

1. 土木工学を修めたる工学博士
2. 帝國大学，大学令に依る大学又は主務大臣に於て之と同等以上と認むる学校に於て土木学科を修得卒業し3年以上第1條第2項の設計監督に關する實務に從事したる者
3. 專門学校令に依る專門学校又は主務大臣に於て之と同等以上と認むる学校に於て土木学科を修得卒業し5年以上第1條第2項の設計監督に關する實務に從事したる者

第4條 左の各號の一に該當する者は構造士たる資格を有せず

1. 禁錮以上の刑に處せられたる者但し2年未滿の懲役若は禁錮に處せられたる者にして刑の執行を終り若は其の執行を受くることなきに至りたる日より起算し3年を經過したるものは此の限に在らず
2. 第12條又は第13條の罪を犯し刑に處せられたる者但し刑の執行を終り又は其の執行を受くることなきに至りたる日より起算し3年を經過したるものは此の限に在らず
3. 破産者にして復權を得ざる者
4. 構造士の業務停止を命ぜられたる期間中の者
5. 構造士の業務禁止の處分を受けたる者但し其の處分を受けたる日より起算し3年を經過し主務大臣に於て改悛の情顯著なりと認めたる者は此の限に在らず

第5條 構造士たらんとする者は構造士登錄簿に登錄を受くることを要す。

登錄に關する事項は勅令を以て之を定む

第6條 構造士の登錄を受けんとする者は登錄料として 20 円を納付すべし

第7條 構造士は誠實公正に其の業務を行ひ其の業務に關し委囑者以外の者より贈與其の他の利益を受くることを得ず

第8條 構造士は自ら左の營業を爲し又は左の營業を爲す者の使用人たることを得ず

1. 土木建築に關する請負業

2. 土木建築の材料に關する商工業
3. 土地，工作物に關する代理業

第 9 條 構造士は主務大臣の監督に屬す

第 10 條 構造士法の規定に違反したるとき又は品位を失墜すべき行爲を爲したるときは主務大臣は構造士懲戒委員會の議決に依り之を懲戒することを得

構造士懲戒委員會に關する事項は勅令を以て之を定む

第 11 條 構造士の懲戒處分は左の 4 種とす

1. 譴 責
2. 1 000 円以下の過料
3. 1 年以内構造士の業務の停止
4. 構造士の業務の禁止

前項第 2 號の過料を完納せざるときは主務大臣の命令を以て之を執行す非訟事件手続法第 208 條の規定は前項の規定に依る執行に付之を準用す

第 12 條 構造士又は構造士たりし者其の業務上知得したる事項にして委囑者に必要なる秘密を故なく漏洩したるときは 6 月以下の懲役又は 1 000 円以下の罰金に處す

前項の罪は告訴を待て之を論ず

第 13 條 構造士の登錄を受けずして構造士の稱號を用ひて構造士の業務を行ひたる者は 6 月以下の懲役又は 1 000 円以下の罰金に處す

附 則

本法施行の期日は勅令を以て之を定む

本法の適用に付ては明治 13 年第 36 號布告刑法の 2 年の禁錮以上の刑に處せられたる者は 2 年の懲役又は禁錮以上の刑に處せられたる者と看做す

土木学會關西支部記事

昭和 13 年 4 月 27 日第 1 回各種委員會を聯合に開催し次の事項を協議せり。

1. 委員長及主査互選の件
2. 調査方針の件

土木学會東北支部記事

第 4 回役員會（昭 13. 4. 23）

出席者： 鶴見支部長，内田，中原，岡崎，佐々木，小坂，佐藤各商議員，三島幹事長，中島，中津海兩幹事，菊田主事

議 事

(1) 5 月 14 日飯坂に於て支部總會を開催すること及附帶事項 4 件その他 3 件を決議せり。

土木学會北海道支部發會式記事

昭和 13 年 4 月 23 日（土），24 日（日））

昨年 10 月 18 日設立認可された土木学會北海道支部の發會式は早春の 4 月 23 日（土）北海道帝國大学中央講堂に於て盛大に行はれた。之より先本年 7 月札幌に於て第 2 回年次学術講演會開催の事に決定して以來，札幌及小樽在住の有力會員は準備委員會を組織し必要に応じて隨時會合し協議を重ね，7 月の講演會の準備をなすと共に，其の前驅たる可き發會式の下相談を行つた。蓋し當支部の包含する地域は北緯 41 度より 51 度，面積實に 125 000 km² の廣區域を占め 1 回の會合乃至は案内狀の發送にも他支部の決して味はざる困難に出會された。然し支部長初め在札及地方有力會員の努力に依り豫期の如く進捗し，當日係員は早朝より出動し來會者を待つた。當日稍險惡なる天候なりし爲，入場者減少を豫想されたにも拘はらず，午前 8 時頃より來會者続々入場し豫想を裏切り，午前 9 時 15 分迄に來賓及講演者 10 名，會員實に 209 名の多數に上り受附を面喰はせた。

(1) 發 會 式

會場正面に國旗を張り，國運の進展と皇軍の武運長久を祈る嚴肅なる氣持を漲らしめ，又演壇上左右に大鉢植を置き莊重なる風致を添え，正面國旗に對し左側を來賓及講演者席に，右側を役員席に，一般會員には正面全部を充てた。

(1) 振鈴（一般會員，役員着席）午前 9 時 20 分
(2) 來賓及講演者着席 午前 9 時 23 分
(3) 開式（司會者 小川幹事，記錄係 林幹事）
(4) 開會之辭（鷹部屋幹事長）午前 9 時 24 分
(5) 國歌合唱（一同起立）（午前 9 時 25 分～9 時 29 分）
(6) 式 辭 北海道支部長 吉町太郎一

今回北海道及樺太在住の會員を網羅した所の土木学會北海道支部が設立されましたので不取敢爰に發會式を擧ぐることになりました。設立の經過に就て申上げますと昨年 5 月當地在住の會員 19 名にあてまして本部から依頼があつたのであります。即ち會の發展の爲め支部を設立したい，東北支部も既に準備中であるから其の地方に於ても發起してほしいとの事でありました。

更に引続いて今回は少數の會員卽ち倉塚,古藤,佐伯,神保,齊藤,渡邊及吉町の 7 會員にあてまして第 2 回年次学術講演會の開催地決定の都合もあるので取り急ぎ準備に着手されたいとの催促が參りました。そこで 6 月下旬各方面を代表する會員 22 名が參集しまして種々協議致しましたが,結局前述 7 名の外更に鉄道側から田中會員と市役所側から故津田會員の參加を願ひまして小委員會を組織し設立準備に當らしめる事になつたのであります。

爾來これらの準備委員は屢會合致しまして支部經費の豫算編成規定及內規の制定其の他入會勸誘又それ等に關して本部との打合を重ねなどしまして大体の準備工作も完了するに至りました。

そこで改めて古藤會員を代表とし設立發起人 78 名を糾合して其の連署を以て支部設置の申請を致したのであります。

これが昨年 9 月下旬でありまして承認されましたのは 10 月中旬でありました。

尋て尙設置事務を整理し役員の選擧も終りまして陣容全く整備したのは本年 2 月初旬であります。

然るに本部から追かけて復照會がありまして,本年 7 月頃北海道に於て第 2 回年次学術講演會を開催する樣申合せたが,地元の意見がきゝたいとのことでありました。當方としては何分設立早々ではあり手廻はり兼ねる點も多々あるべく推想せられるのでありますが,何れ一度は御引受せねばならぬことであるから,此の際潔よく承諾するといふことに役員の意見も纏りまして,目下手分を致しましてそれぞれ準備に着手して居ります。卽ち本年 7 月中旬全國の會員が當地に參集しまして 2 日間に亘る学術講演會が開かれ,講演が終りますと 3 班に分れまして道內諸地方若くは樺太の見学旅行に上る豫定で計畫を立てゝ居ります。それにつけても支部としましては其の設立を明にする爲,年次講演會以前に何かの形式で發會式を擧行して置くべきではないかと考へられて居ります 矢先に一部の有志會員から此の機會に於て一度支部講演會を開ひてもらひたいとのことで詳細案を具して希望の申出があつたのであります,そこで此の兩者を一括融合して爰に本日の發會式が成立した次第であります。

式は時節柄簡素を旨とし執行することに致しました。幸に多數會員の御參集を得,本部からは新井副會長が御臨席下されたのみならず,大学總長,道廳長官,其の他有力なる閣下並に各位の御參列があり,更に講演の勞を執られる爲,橋口鉄道省官房研究所長,宮本內務技師が遙々御來道下さいまして,質素乍らも莊重なる式を擧ぐるを得ますことは支部として誠に欣幸に耐へぬ所であります。

顧みますと土木学會の創立は 20 數年前でありまして當時は学會も事業界も今日程複雜多岐ではありません,會誌に登載すべき論文材料が種切になりはしないかと懸念された程度でありまして,今日の隆々たる會勢と較べますと誠に隔世の感に打たれるのであります。勿論長い間には會勢にも一進一退がありまして一時は沈滯の空氣の漂ふたかの樣に見えたのでありますが,幸に有志會員の御盡力に依りまして漸次活氣を呈し殊に近年は時局に卽する諸問題を取り上げて調査研究の結果或は出版或は建議提案となりまして時々公表されますことは御承知の通りであります。之と同時に自戒自肅を忘れず吾人は如何なる信念の下に奉公の實を擧ぐべきかを內省した結果は之亦御承知の通り土木技術家の信條及實踐要綱となつて公表され吾人の向ふ所を指示するの擧に出ました。

斯樣な次第で中央の意氣は誠に熱烈なるものがありますが,扨此の熱烈眞摯な意氣込も地方に散在する多くの會員に徹底的に反映するか如何かは疑はしいのであります。それは會と會員との唯一の連絡は每月發行さるる一部の會誌のみであります。然も會員の多くは當面の實務に忙殺されまして精讀する暇がないといふのが實續ではあるまいか。又中央に於ては時々講演見学の催もありますが,遠隔の地にあるものに取りましては參加の機會は絕無であつて,自然會とは緣が薄くなり勝であります。加之地方の會員は平素接觸する同人の範圍は極めて狹少であります。斯樣な次第で中央の折角の意氣込も充分徹底せず,又會員相互の研磨の機會の少ないといふことが一般地方會員にとりまして誠に不利な點であつたのであります。支部の設置は畢竟此の不利不便を補ふ所に其の重點が存するのであると考へられます,當地方に於ては會員は極めて廣い地域に分散して居りますので,會員全部の集合といふことは困難ではありますが,然し今後は支部の事業として或は講演に或は見学に努めて會合の便宜をはかり會員相互の切磋琢磨に便じたいと存じます。殊に本道樺太地方には綜合的努力に俟つべき特殊の研究問題が不尠存することでありまして是亦支部將來の重要なる事業と申さねばなりません。

それにつけても入會資格あるものは成るべく多數糾

合したいと考へます。北海道樺太在住の會員數は昭和11年末の調査に依りますと362人でありますが，支部設置に際し新たに入會せられたもの實に203名の多きに上りまして尙続々申込がある模樣であります。此の如き激增を見ましたのは會員各位の御盡力にも依りますが，支部が設置さるゝといふことも其の因をなして居るものと存じます。然し尙未だ全部が網羅されたとは申されません，入會金補助の便法は7月末日まで延期されましたから此の機會を利用して入會さるゝ樣會員各位に於ても精々御勸誘あらんことを希望致します。

最後に少しく吾人技術者の前途に就て感想を述べて見度いと思ひます，土木技術家の任務は地球の表面を切り盛して住心地よく改造するに在ると言はれます。故に苟も人類の生存する限り其の慾望の停止せざる限り改造の止むときはありませんから，土木技術者の事業は未來永劫盡くることはないのであります。唯事業には時局の關係上部分的又は全面的に一盛一衰の伴ふは免がれません。現今の樣に鋼材の使用が制限されますと關係方面の事業は當分足踏して待機の姿勢を取らねばならぬといふのが其の一例であります。乍去彼樣な現象は永久的ではありません。やがて勃興すべき前提に過ぎないのであります。

北海道樺太地方は古來北門の鎖鑰と呼ばれて其の開發の急務なるは夙に叫ばれて居りますが，其の進展割合に遲々として居ますのは國策上止むを得なかつた結果かも知れませんが，兎に角施設すべくして尙其の緒に就かぬ事業が多々殘されて居ます。然もこれも考へ樣によりましては，今後の技術家の爲それだけ多くの仕事が保留されて居るので必ずや捲土重來の時機は早晩あるものと樂觀出來ぬ事もないのであります。現に近來生産擴充の必要に迫られますと當地方も重要な役割を演ぜねばならなくなりました。而も生産擴充は運輸交通の円滑なる作業と相俟つて其の效果を擧ぐることが出來るのでありますから，直接間接に土木事業に影響し其の進展を促すことになることゝ考へます。

更に隣邦大陸の將來を考へますと，之亦技術家の手腕に俟つべきもの多々あるのであります。百年河清を待つとか，黃河を治むるものは天下を治めるとか言はれます程で事業の規模の大なる且つ永遠性に富むことは想像に餘りあります。當支部の會員の如きは酷寒と戰ひ特種の風土に鍛へ上げられた剛健な身心と豐富な經驗とを提げてこれ等各地の經營に參加する機會もないとは限らぬのであります。

彼を思ひ此を思へば吾人の前途には爲すべき仕事が山の如く堆積して其の解決を待つて居るのでありまして，勇躍邁進の念禁ずる能はざるものがあります。唯事業には一弛一張は免がれませんから其の間に處するに吾人は急かず迫らず各自其の任務に對し最善の努力を拂ひ力强く歩一歩を進むるに努めねばならぬと存じます。更に申添へたい事は近來技術家に對する認識が革正せられつゝあることであります。之が如何に具体化さるゝか分りませんが，兎も角泣寢入に終つて居た技術家の要望に對して聊か曙光を認めたと申しても差支ないと存じます。乍去，之と同時に吾人の責任更に重を加ふるものであることを忘れてはなりません。

時恰も困難を克服して一意邁進すべきの秋であります，此の時期に於て支部の設立せられましたことは，其の意義誠に深いものがあると存じます。街頭屢出征の途に就く將士を見送り更に又戰線に立て，生死の境を出入する將卒の艱苦を念ひますと自ら緊張感激せざるを得ないのであります。吾人宜しく之を記念して各自精進努力斯界の爲邦家の爲貢獻致したいものであります。聊か蕪辭を列ねて式辭と致します。

(7) 祝　辭

土木学會長　辰馬鎌藏

本日北海道樺太を包含致しする土木学會北海道支部の發會式を擧行せらるゝに當りまして聊か祝辭を申上げ度いと思ふのであります。

顧ますれば土木学會は大正3年に誕生致しまして以來20有5年その間我國土木工学の進歩と土木事業の發達に盡瘁致して參りましたが，近時會運益々隆盛を示し會員既に7100名を突破するの活況を呈するに至りましたことは，會員各位の熱誠なる御骨折りの賜と厚く感謝致して居る次第でありますが，又同時に土木学會の使命が漸く斯界關係各位の認識を深めるに至りました結果にして御同慶に堪へざる次第であります。

近年北海道の發展は目覺しきものがあります。

その重なる原因は早くより土木事業に意を注ぎたる結果であると存じます，例へば港灣工事の如き本土より一歩先んじて居つた觀がありました。卽ち諸君の先輩並に諸君は北海道のため並に我が土木事業のために多大の貢獻をせられた次第であります。斯くの如く土木事業の發達した北海道に土木学會支部が無かつたことは寧ろ遲きに失する位に感ぜらるゝのであります。

申上ぐるまでもなく今次の支那事変も皇軍の赫々たる功績によりまして戰局も著しく進展し一段落ついて

第 2 段の長期戰に入ると共に東亞永遠の平和確立の爲に聖戰が続けられて居るのでありまして對外施設の充實に，國力の涵養に時局は極めて重大の秋であります。

この緊迫した時局に處する北海道樺太の占むる位置は又極めて重要なるものがあり，その包藏致しまする天然資源の開發生產力擴充に最善を盡すの要がありと信じますが，之には先づその根源である土木技術の力に俟たねばならないのであります。

即ち道路，鉄道，運河，河川の改修，水力の開發，港灣，上下水道等總て土木工事の伴はざるものは一つも無いのであります。

今や時局は極めて重大でありまして土木技術家の一大奮起を必要と致しますとき北海道樺太を一丸と致します土木学會北海道支部の誕生を見ましたことは誠に意義深きものがあります。何卒會員各位に於かれましては向後益々土木技術報國の道に邁進せられまして相互の親密を加へ相率ひて斯界の隆盛向上と北海道支部の充實を図らるゝ樣希望致しまして本發會式の祝辭と致します。　　（新井副會長代讀）

關西支部長　島崎孝彦

本日社團法人土木学會北海道支部發會式を擧行せらるゝに方りまして，御祝詞を申上ぐる機會を得ました事は私の光榮とする所であります。本学會は今や會員約 7 000 人を算し，本邦学會中，最も大にして且つ權威あるものであります，而も最近其の機構を改め其の强化に努めつゝありまする時に際し，曩には東北支部の創設を見，今又當北海道支部の創設を見まする事は本学會が國策の線に沿ふ機能發揮の表徵として誠に慶賀に堪へない次第であります，將來之等の各支部が相互に相聯携を保ちつゝ，学術の向上發展に盡瘁し得まする事は一層本学會の機能を擴充せしむる上に於て力あるものでありまして寔に有意義の事と云はねばなりません。

今や國家は非常時局に直面して居りまする時に方り我々は其の本來の使命に基いて最善を盡し所謂技術報國の誠を致す事が出來まするならば本懷之に過ぎるものはないのであります。

以上蕪言を陳ねまして祝詞に代へます。

（柴田關西支部幹事代讀）

北海道帝國大学總長　今　　裕

土木学會北海道支部が茲に其の成立を見，本日發會式を擧行するに至りましたることは衷心慶賀の至りに存ずる次第であります。北海道帝國大学工学部創立の當初に於て先づ第一に土木工学を選んで之を設置したのであつて，是は土木工学の学術的研究の重要性を認めたのは勿論でありまするが，又其の施設を以て土木工学の模範たらしめ北地の交通營繕の發達に資するの主旨に出でたものと思はれます。土木学會は已に 20 數年の古き歷史を有するにかゝはらず其の利用は專ら帝都の附近に限られ，遠隔地方に於ては其の餘澤に均霑することが出來なかつたのでありまするが，今や其の憾みなきに至りましたことは誠に悅に堪へません。殊に現下土木資材の缺乏と價格の暴騰とは土木事業の技術的經濟的合理化を要望すること益々切なるものがあり，而も北海道樺太の拓殖事業は頗る大規模であつて殊に現下の時局に於て資源開發の促進を切望せらるゝ際，土木学會北海道支部の創立は誠に其の時期を得たるものと云ふべく大学機關と協力して学術の進歩に貢獻すること大なるものあるべきのみならず，實際社會に利益する所甚だ多かるべきを思ふもので御座ります。吾人は本学會の圓滿なる發達を希望し廣く学界と實社會とに貢獻すること益々大ならむことを祈りて止まざる次第であります。

北海道廳長官　石黑英彦

本日茲に土木学會北海道支部發會式を擧行せらるゝに當りまして其の式典に參列し祝辭を申述ふる機會を得ましたことは私の最も光榮とする所であります。

惟ひみまするに人爲によつて自然を美化し人類の生活を豐富ならしむるものは土木事業であります。殊に一國の興隆は其の國の文化經濟の發達に俟つの他ないのでありまして，土木事業が常に其の根幹を爲し又其の先驅となるといふことは過去 70 年間に於ける本道拓殖の跡を顧みましても愈々其の感を深くする次第であります。

道路の開鑿，橋梁の架設，鉄道の建設，港灣の修築，河川の改修等諸般の設備が進捗するに從ひ人口は增加し產業は勃興して今日の盛大を觀るに至つたのでありまして，其の間に於ける土木技術者諸氏の功績は永遠に忘るべからざるものがあるのであります。

支那事変は今や本格的段階に立到りまして生產力の擴充は益々强調されて居ります。天然資源に富み今猶開拓の道程にある本道並に樺太の使命は愈々重大性を加へて參つたと申さなければなりませぬ，斯かる時土木事業の向上發展と會員相互の親睦とを図る爲斯業に深

き經驗と知識ある多數の学會員各位の御協力によつて北海道支部を設置せらるゝに至りましたことは當地方の爲將又邦家の爲洵に慶賀に堪へぬ次第であります。

御承知の如く當地方は府縣と氣候風土を異にする爲土木工事の施行にも格別の調査研究を要することゝ存ずるのであります。

會員各位に於かれては何卒本支部設立の趣旨に鑑みられ，其の運用宜しきを得て益々斯道の發達に努め以て非常時局の打開に貢献せらるゝやう衷心から切望して止まぬ次第であります。 (神保勅任技師代讀)

札幌市長 三澤寛一

茲に土木学會北海道支部發會式を擧行せらるゝに方り一言祝意を表するの機會を得たるは洵に欣榮とする所なり。

惟ふに土木の事たる人文發達の基調地方開發の根幹にして國家の興隆產業の振興，社會の福祉一として之が施設に依らざるなし，殊に官公施設の大半を擧げて之が實施の十全を期しつゝある本道及樺太の現勢に鑑み之が關係者の發奮努力に期待するもの洵に切なり。此の秋に方り茲に本學會支部の設立を見，相共に切磋砥礪以て一層斯道の向上進歩を期するの決意を擧うせられたるは地方の爲將た邦家の爲洵に慶祝に堪えざる所なり。

今や時局は愈持久の段階に入り擧國振張內國力の充實に努め外，國威の宣揚に邁往して一意報效の誠を竭しつゝあるの際，北門の鎖鑰たる帝國の寶庫たる本道及樺太の使命や眞に重且大なるものあり，希くば關係各位深く本支部設立の趣旨に鑑み運營其の宜を制して銳意其の機能の發揮に努め以て國運の隆昌地方の繁榮に寄與貢献せらるゝ所特に多からんことを。

聊か所懷の一端を陳して祝意と爲す。

(伊澤助役代讀)

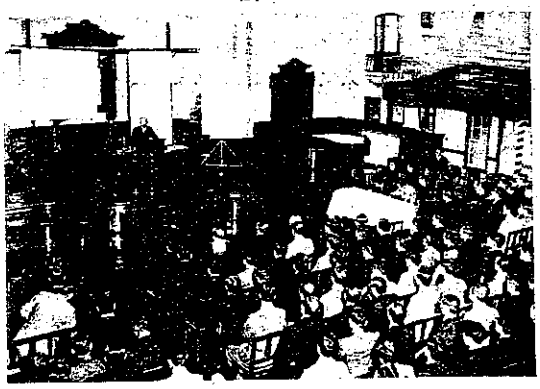
樺太長官

支部創立の御盛儀を祝し將來斯界の指針として國家に貢献せらるゝこと絶大なるものあるを信じ，滿腔の敬意を表すると共に御發展を祈る。

(8) 閉會之辭 (鷹部屋幹事長) (午前 10 時 12 分～10 時 15 分)

先づ本日の土木学會發會式の無事終了したる事を述べ，御多用中斯く多數來賓の御臨席並に會員各位の御來會を得，豫想外の盛況を以て終了したる事に對して厚く感謝の辭を述べ，尙會員各位に對して今後も會員增加に盡力を冀ふと共に，支部の事業として各地に講演，見学，研究發表座談會等を開催し目的達成に努力する豫定なる故，今日以上の熱意を以て準備，研究を進められんことを希望された。尙此の外注意として都合に依り記念寫眞撮影を中止したる事及一旦休憩し再び振鈴に依り同一場所に於て講演會を開催する旨述べ，閉會の辭と爲した。

図-3.



(9) 休 憩

(2) 記念講演會

(1) 振鈴 (一同着席) 午前 10 時 32 分

司會齋藤商議員，学生を主とする一般入場者も多數詰め掛け堂に溢るゝ盛況を呈した。

(2) 講演 (午前之部) (午前 10 時 35 分～11 時 55 分)

(1) 我が土木技術者の自覺 (午前 10 時 35 分～11 時 05 分，30 分間)

土木学會副會長 工学博士 新井榮吉氏

水力電氣技術特にサーヂタンクの研究に依つて著名なる氏は巨軀を壇上に現はし，近年我國の土木技術の目覺しき進歩の狀態を其の各部門に亘り一々豐富なる實例を以て示し，斯の如く各方面に於て進歩したる今日，外國の著書，雜誌に依り外國の技術を学ぶ場合，其の長所を採ると共に其の缺點を正し或る見識を以て見られ度く，外國崇拜を捨て批評的に見て貰ひ度き旨述べられ外國人の技術にも玉石混淆の例として氏の關係せられたる臺灣電力會社日月潭，東京電燈等の實例を擧げ，要するに技術上より見て日本も外國も對等である事を示された。又國際堰堤會議に日本が入會を勸誘された時，一部の人は日本の堰堤技術の進歩を擧げ入會の必要無き說を吐いた事があつた，今日は既に入會して種々の利益を得て居るが，此の見識丈けは買ふ可きであり，要す

るに外國の技術の長短を區別し，見識ある態度を取られ度しと結び，今日參會の誰しもが待望する技術者の自覺に就て深き注意を與へられた（次號に於て登載の豫定）。

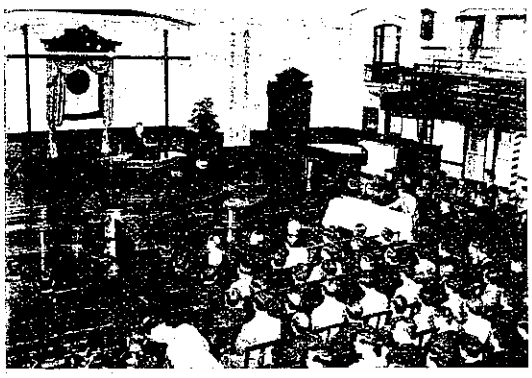
(2) 2つ以上の集中荷重を荷ふ可撓性索條に就て（午前11時06分～11時54分，48分間）

北大名譽教授　工学博士　吉町太郎一氏

先づ純粹なる研究論文なる故聽衆に對し興味薄き事を前置きせられ，一つの集中荷重を荷ふ索條の場合は外國の文献にも散見さるゝも，2つ以上の場合は未解決の現狀に在ることを示し，2つ以上の集中荷重を荷ふ場合其の曲線を parabola と假定して水平張力に對する一般原式を誘導し，更に特殊なる集中荷重に於ける場合の公式を列擧せられ，計算を簡單にする爲，水平張力に對する第1及第2近似式を創作し，最後に catenary に依る正解との比較に就て詳細なる數字的の檢討を示された。

本講演は寧ろ研究發表としてより高き價値を有し，現役を勇退されて後尙專門の研究に精進される意氣を示し，參會者も往年の名講義の再來を耳にするを得，副會長の講演されたき技術者の自覺を實際に示されたものであつた（次號登載）。

図-4.



(3) **午餐會**（午後0時10分～35分）　学生集會所2階

會場附近に適當なる中食場所少なく豫め申込に依り折詰辨當を準備したる處，申込者180名に及び，來賓を中心として一堂に會し期せずして午餐會と同一效果を示し，殊に全參會者相互の親睦に役立つた事は午後の懇親會に比して劣らなかつた。

(4) 講　演（午後之部）（午後1時0分～3時50分）

(i) 振鈴（一同着席）午後1時0分

司會者井口商議員，入場者は午前にも增して午後の講演を待つ。

(ii) 講　演（午後1時03分～3時42分，2時，間39分）

(iii) 支那開發と技術（午後1時03分～2時05分，1時間02分）

內務技師・東大教授・工学博士　宮本武之輔氏

本題に入るに先ち當支部創立當時土木学會理事として特に關係深き事を述べ，且つ近頃多忙の爲，資料を集める暇無く話の內容に纏り無きを懸念すると前置きし，支那開發と云へば如何にも日本が支那を侵略するかの如く聞えるが，先づ第1に支那大陸の無限の資原を開發するに如何なるイデイオロギーに依つてなすかゞ問題であり，支那に進出する我國の態度は數次の聲明の如く侵略國の態度に非ずして東亞の平和，人類共同の利益の爲に開發す可き事を述べ，此の爲には支那の資源を日本に持來すよりも，寧ろ支那內地に重工業の中心を置き大陸に固定資本を下し，所謂“北支の聖業”を行はねば成らぬ，更に從來未開發に終りしは資源を開發する方便即ち (1) 資本，(2) 技術，(3) 組織の不備なる爲にて，日本が開發をなす場合最重要なるは技術なりと斷定し，特に此の際最重要なるは技術の綜合であると述べられた。各部門の研究を組立てた優秀なる技術が未開發の國を開發するには特に必要なりと又獨り土木技術のみならず他学との協力を必要とすると强調し，帝國が大陸に進出するに如何に技術が重要なるかを示し，土木技術者の自覺を促された（次號に於て登載の豫定）。

(iv) 鉄道土木技術輓近の趨勢（午後2時08分～3時42分，1時間34分）鉄道省官房研究所長　橋口行彥氏

先づ題目の範圍廣き爲“我國に於ける國有鉄道”と限定し，最近に於ける鉄道の土木關係技術の特徵及趨勢に就て詳細に述べられた，鉄道土木技術とは云へ其の內容は土木技術の最重要事項を殆んど網羅し，其の概要を示す丈けにても容易な事では無い。故に茲には其の講演の標題及二三の主要事項の名前丈けを揭げる事とする。

（イ）緒言：

（ロ）線路：(1) 列車の高速度運転並に電車運転，(2) 線路改良（曲線半径，緩和曲線，反向曲線，分岐器先端軌條の改良，鈍端転轍器，乘越転轍器，軌道强度計算式の制定，軌條材質及長さの変更，軌條の電氣熔接，継目板の断面の改良，枕木の改良，道床の改良）(3) 信號及保安（信號機，聯動裝置，遮断信號，遠距離制禦法，集中制禦，(4) 平面交叉分離（神戸，大阪交叉上下置換工事）(5) 線路選定（paper location，航空寫眞測量）

（ハ） 停車場： (1) 大停車場改良の方針, (2) 旅客驛, (3) 貨物驛及操車場

（ニ） 工事の設計並に施工： (1) 土質調査(物理地下探査法), (2) 土工, (3) 隧道(新塡式, 上部開鑿式, 地下鉄道), (4) 橋梁（電弧熔接補强, 黄河橋梁), (5) コンクリート工（ヴアイヴレーター）

(5) 挨拶 司會者 井口商議員

講演に對する御禮及本講演會が盛大裡に終了したる事を謝し, 併せて映畫の準備の爲休憩することを述べられ講演會を終了する。

(6) 映畫會（午後4時～5時5分）

(1)	ニユース	全1卷
(2)	下淀川橋梁架設工事	全3卷
(3)	ニユース	全1卷
(4)	釣ところどころ	全1卷
(5)	世界一を觀る	全1卷
(6)	漫畫	全1卷

(7) 懇親會（午後6時20分～8時30分）

午後6時20分より市内グランドホテル大廣間に於て, 新井副會長, 橋口, 宮本, 柴田, 倉塚, 神保其の他の諸氏を主賓とし, 總勢104名, 專門を同じくする技術者の集りは限り無き喜びに充され, 特に今回は普通の例を破り新進の方々の多く出席された事は大成功であつた。時節柄質素を旨とした宴會ではあつたが, 殆ど北海道全道よりの會員の懇親は充分盡された。支部長より今日發會式其の他豫想の盛況裡に終了したるは全く來賓及講師諸氏及會員各位の御盡力に俟つ旨述べられ, 尙將來支部の發展の爲に御協力を期待すると挨拶の辭を述ぶれば, 新井副會長は起て來賓一同を代表し謝辭を呈し, 嘗て大正5～7年に函館市土木課長として在職せし事を述べられ北海道の如く比較的天惠厚からざる地に於て斯の如く開發せられたるは全く土木事業の爲なりとし, 今後會員協力して土木事業の振興に努力す可きことを强調せられ, 會員一同も充分歡談を盡して午後8時半散會した。

(3) 見 學

4月24日(日)（午前9時～午後2時15分）

前日の險惡なる天候に引換へた天候に惠まれ豫定の如く進行した。

(i) 札樽國道： 定刻午前9時以前より続々札幌驛前廣場に集合し其の數135名に達した。見学係總出にて斡旋し, 北海道廳札幌土木事務所より「札樽國道改良工事概要」を受取り市營觀光バス5臺に分乘して, 午前9時20分白雪を載く手稲連峰を左にして砂塵を擧げて鉄道函館本線と略併行して相當の距離を保ちつゝ西北に走る。未改修區域を走ること30分にして銭函を通過し, 初めて先年改修せられたる札樽國道（幅員7.5m）の部分に入ると共に展望は一転して, 右に靜波寄する日本海を脚下に望み左に手稲の殘雪を仰ぎ鋪裝せられて後の絶景を想像し乍ら張碓橋(径間72mバランスドアーチ)を渡り, 午前10時15分見晴シガ丘に到着, 各下車して小憩した展望絶佳であるが, 時期尙早く設備も未だ整はず寒風に曝さるゝのみであつた。午前10時23分同所を發ち國道中最長の張碓トンネル（延長620m, 幅員7.5m）に入り, 之を出で鉄道と併行して走り, 午前10時40分國道の終點にして小樽港南防波堤の根本に在る北海道廳小樽築港事務所前に着した。

(ii) 小樽築港工事, 鉄道省石炭積込設備： 築港事務所にて湯茶の接待及図面の配布を受け, 午前10時55分既に準備中の岸壁用ケーソンの進水を見学する。ケーソンは高さ10m, 長15m, 幅8.5m 重量約800tにて, slipway より海中に進水する狀態は壯觀その物であつた。其の後防波堤上を歩き, 堤に繫泊の港丸, 櫻島丸に分乘して午前11時25分鉄道省石炭積込施設箇所に上陸, 各部分の作業を詳細に見学した。本裝置は手宮高架棧橋に代るべく鉄道省が最近設備したものであり, 室蘭港の夫と同一にして, 能力1時間800tのもの2臺を有し鉄道省の誇る可き特殊施設である。冬期中凍結したる炭車は特に融炭裝置に依り steam jet を用ひて融解し, 炭車は先づミュールに依てカーダンパーの中に押上げられ石炭を取卸し, ベルトコンベヤーに依て自動的に計量機を通過し乍ら最後にローダーに依り, 繫船中の船舶に積込むものである。午後12時15分前記2隻の汽船に分乘して, 港内を一巡し乍ら市營岸壁, 小樽築港事務所にて工事中の第2期拓殖計畫の埠頭工事を見学し, 手宮方面に至り, 鉄道省高架石炭棧橋及私設石炭船積設備を見学, 更に方向を変へて港口を經て北副防波堤を見学し, 午後1時00分豫定の如く中央棧橋着, 徒歩10分にして北海製罐倉庫會社に到着した。

(iii) 北海製罐倉庫會社： 小樽港を眼下に見下す同會社事務所3階食堂に於て參會者一同既に用意されたる折詰弁當を開き小憩したる後, 午後2時より工場見学に赴く同工場は罐詰の罐を製造する工場として特異の存在にして, 工程の殆どが機械化せられ, 且つ材料製品の性質上音響の大なる事業が特徴である。4階の製蓋工場, 雜罐工場, 3階の製罐工場, 製函工場, 罐荷造場等を見学して午後2時15分無事本日の見学を終了し, 小樽

市に於て解散した。

(9) **實行委員氏名**　今回の發會式に當り支部長より委囑されたる實行委員は下記の如く，玆に各位の御盡力に對して厚く感謝する次第である。

總務係	吉町太郎一	古藤猛哉	鷹部屋福平
	林　猛雄	眞井耕象	小川讓二
	松木憲司		
講演係	齋藤靜脩	井口鹿象	林　助一
	眞井耕象	田中茂美	小川　勝
	板倉忠三		
接待係	神保金衞	服部幸一	渡邊榮五郎
	管　良二	瀨田一雄	高橋勝衞
	高橋敏五郎		
見学係	杉森文彥	相山常治	田中茂美
	兵藤末吉	大西朝男	下鳥正夫
	青山武雄		

その他記事

○昭和13年5月1日土木学會誌第24卷第5號を發行成規の手續を了し全會員に配布せり。

入會及轉格會員

特別員（入會）

株式會社芦田工業所	芦田亨介君			3級
株式會社大阪機械工作所	原　清明君			〃
株式會社鴻池組	鴻池忠三郎君	鴻池小六君	鈴木末尾君	2級
〃	三池貞一郎君	大橋靜夫君	菊池雄三君	〃
中央電氣株式會社	今井五介君			3級
鉄道省土木建築請負業聯合會秋田支部	相澤重吉君	堀井永助君	荒澤永吉君	〃
松尾橋梁株式會社	松尾岩吉君	關場茂樹君		〃
合資會社西本組	西本健次郎君	西本竹吉君	西本健三君	2級
	西本用三君	齋藤飾君	寒川朝臣君	〃
	加藤新松君			
日本海電氣株式會社				3級
合資會社細野組	細野房吉君	細野濱吉君	細野島吉君	〃

會員（入會）

右近保太郎君	札幌鉄道局工務部工事課	高橋清藏君	東北振興電力株式會社	本間昌吉君	札幌室蘭保線事務所
小川辰三郎君	土木施工学獨立研究所	辻　宏君	札鉄苫小牧保線區	宮前喜藏君	北海道廳厚尾築港事務所
神戸　浩君	札鉄野付牛保線事務所斜里保線區	長谷川知一君	新鉄山形保線事務所		
坂部勝夫君	札鉄野付牛保線事務所	花里　馨君	札鉄旭川保線事務所		

准員（入會）

阿部雄飛君	鉄道省北海道建設事務所	笠原勝二郎君	北海道廳留萌土木事務所	竹内富男君	奉天鉄道總局諮詢委員會
青木　裕君	北海道廳留萌土木事務所	龜山道久君	關東州廳土木部工務課	谷口久雄君	札幌鉄道局工務部保線課
青山正雄君	札幌鉄道局工務部	川村慶正君	札鉄根室保線區厚床線路分區	津島秀雄君	神戸市役所水道部工務課
石川豐四郎君	東京市水道局擴張課	喜多村重信君	大阪府土木部吹田工營所	鶴賀好雄君	北海道炭礦汽船株式會社
臼井寛一君	株式會社熊谷組	桐明隻一君	鴨綠江水力發電株式會社	富本鉄夫君	札鉄函館保線區
浦富三郎君	鉄道省北海道建設事務所	工藤　謙君	札幌鉄道局工務部	花田勝知君	札鉄追分保線區
越智荒太郎君	大阪府廳土木部	小關芳造君	札鉄釧路保線事務所	平瀨秀博君	札鉄岩見澤保線區
尾藤三郎君	北海道廳留萌土木事務所	小山　勇君	札鉄野付牛保線事務所	福田治次君	札幌鉄道局工務部改良課
大島長道君	〃	佐々木　一君	北海道廳留萌土木事務所	森　良介君	北海道廳留萌土木事務所
大野正俊君	札鉄根室保線區	關口　保君	札鉄名寄保線事務所	八嶋辰夫君	北海道炭礦汽船株式會社
鹿野三郎君	札鉄野付牛保線事務所	高林米太郎君	鉄道省北海道建設事務所	山田　勳君	鉄道省北海道建設事務所

山本龍也君　札幌鉄道局工務部改良課
吉田重一君　北海道廳留萌土木事務所
亘理　修君　内務省阿武隈川上流改修事務所
紀本正二君
藤田藤吉君　北海道廳土木部河川課
藤原儀平君　株式會社間組
增田通尙君　札鉄深川保線區
首藤重明君　大阪電氣軌道株式會社
中川隆二君　大阪電氣軌道株式會社
宮森虎夫君　〃

学生員（入會）

鹿子木　功君　熊本高工
佐藤　巖君　日大高工
清水　宏君　北大土木專門部
田代健太君　熊本高工
的場一郎君　日大高工
宮下　孝君　北大土木專門部
吉田三郎君　熊本高工
飯塚久郎君　東京帝大
上田包清君　〃
小池武夫君　神戸高工
小西利明君　東京帝大
園田豐厚君　〃
田所秀土君　神戸高工
田中耕也君　東京帝大
田中廣夫君　神戸高工
永田三郎君　名古屋高工
野田和郎君　東京帝大
土師定之君　神戸高工
原田哲三君　東京帝大

會員（転格）

藤田浩藏君　合資會社藤田組

准員（転格）

阿子島忠夫君　京濱地下鉄道株式會社
青島健雄君　海軍省建築局土木係
青山金逸君
赤澤　稔君　鉄道省東京建設事務所
伊藤三郎君　住友鑛業株式會社
伊藤孝一君　平北鉄道株式會社
石田敏則君
石橋治喜君　鉄道省工務局改良課
一木保夫君　内務省東京土木出張所
泉山政一君　仙臺鉄道局工務部
岩木福太郎君　鶴見臨港鉄道株式會社
岩本正行君　滿洲採金株式會社
内木場幸男君　門司鉄道局工務部
内海哲衛君　忠清南道廳土木課
添間大吉君
榎本義雄君
小川　元君
生出久也君　日產化學株式會社
大川信一君　東京高速鉄道株式會社
大塚勝登君　内務省下關土木出張所
大西清一君
大橋恒夫君　埼玉縣廳土木課
太田　進君　仙鉄青森保線事務所
王　運　實君
岡崎永則君　滿洲合成燃料株式會社
岡田義夫君　東北振興電力株式會社
岡野　浩君　内務省神戸土木出張所
岡本虎雄君
折居　隆君　東鉄上野保線事務所
加茂林八郎君　農務總督府交通局道路港灣課
柿沼龍次郎君
影山隆俊君　廣島鉄道局工務部保線課
梶原靖正君　東邦電力株式會社
金子健太郎君
金子收事君
金子孝之君　滿洲國水力電氣建設局
金原治雄君　東北振興電力株式會社
神田朋之君　株式會社鹿島組
神田文雄君
川見駿之輔君
木天秀郎君　東京電燈株式會社
木村芳三郎君
鬼頭滿男君　内務省土木局第一技術課
北住利雄君　大倉土木株式會社
北野　寛君
國枝政典君　東邦瓦斯株式會社
熊谷哲夫君
神代方雅君　白石基礎工業合資會社
雲北敏雄君　株式會社間組
黑笹正三君　鉄道省東京建設事務所
小針昌明君
吳　光　漢君
甲田佐穆君　朝鮮總督府殖產局鑛山課
佐々木壯吉君　關東洲廳土木局工務課
佐藤清一君　内務省土木試驗所赤羽分室
齋藤光雄君　朝鮮總督府鉄道局工務課
齋藤八郎君　鉄道省東京改良事務所
稅所重藏君
坂　弘次郎君
坂田　中君
酒井俊夫君　鉄道省工務局
澤野正壽君
清水宗治君　王子製紙株式會社
清水恒夫君　東京府廳土木部
宍戸長十郎君　愛知縣廳土木部
柴田健三君
柴田高次君　海軍省建築局
島田知一君　住友鑛業株式會社
神　勤君　株式會社鹿島組
菅原孝助君　朝鮮總督府鉄道局工務課
鈴木文男君　東京鉄道局工務部
千賀重衛君　内務省横濱土木出張所
十龜修三君　株式會社西松組
側見文夫君
高橋勝巳君　大阪府廳土木部富田林出張所
高橋三郎君
高橋脩一君　内務省土木局第2技術課
高橋淳二君　内務省洞海灣改修事務所
高橋利一君
竹内一雄君　佐賀縣廳土木課
竹前　壽君　三菱鑛業株式會社

武澤清夫君	札幌鉄道局總務部人事課
武田德正君	
立花文勝君	鉄道省建設局
谷口邦夫君	三菱鑛業株式會社
爲近正博君	
俵　豐男君	大鉄大阪保線區
丹野才八郎君	滿洲國大同学院
千田孝雄君	新鉄秋田保線事務所
辻本義一君	尼崎市東部土地區畫整理事務所
出水義也君	
戸田　登君	東京府京濱運河建設事務所
東房正巳君	尼崎市役所土木課
德中省三君	住友鑛業株式會社
富田高久君	仙臺高等工業学校
中瀬　弘君	
中野恭平君	三菱鑛業株式會社
中村亥平君	株式會社間組
中村保雄君	
中村善雄君	鉄道省信濃川電氣事務所
新田正夫君	日產化学工業株式會社
服部正一君	東邦電力株式會社
服部忠雄君	
早谷　崇君	日本電力株式會社
原田一雄君	松尾橋梁株式會社
春成　正君	
茨田孔太郎君	白石基礎工業合資會社
平佐正男君	大阪鉄道局工務部
平山定雄君	廣島電氣株式會社
藤城三郎君	
藤本正直君	九州水力電氣株式會社
穗積輝夫君	鉄道省建設局
星野志郎君	
堀　武男君	鉄道省建設局
前川住男君	九州水力電氣株式會社
牧野邦雄君	
町田佐一郎君	日本製鉄株式會社
松崎忠雄君	
松村　清君	鴨綠江水力發電株式會社
松本邦顯君	
丸尾舜亮君	朝鮮總督府內務局平壤土木出張所
丸山二郎君	富士川電力株式會社
丸山致弘君	西宮市役所水道課
三浦繁夫君	
三浦壽太郎君	
三浦貞吾君	京都府廳土木部道路課
三浦德壽君	陸軍造兵廠大阪工廠
三宅　剛君	朝鮮總督府內務局裡里土木出張所
溝口梧郎君	東京鉄道局工務部
溝口　博君	名古屋鉄道局工務部工事課
皆木　勉君	東邦電力株式會社
宮崎虎太郎君	大阪府廳土木部道路課
宮崎正元君	日本鑛業株式會社
宮本　勇君	
村　幸雄君	神奈川縣廳土木部
村井寬義君	横濱市役所水道局工務課
村瀨信夫君	
守田康雄君	新潟縣廳土木部
森　繁夫君	三井鑛山株式會社
矢口喜一君	土木請負業自營
安田　正君	
山內　忠君	內務省東京土木出張所
山川　明君	株式會社藤田組
山口太三郎君	大阪府土木部高槻工營所
山下茂夫君	大倉土木株式會社
山田良一君	忠清北海道廳土木課
山中麟之介君	大阪市役所水道部給水課
山本峰治君	
山本義治君	合資會社西木組
横田一郎君	仙鉄仙臺保線事務所
吉塚善輝君	東京市役所水道局擴張課
吉原重明君	株式會社横河橋梁製作所
林　基弘君	
和波久榮君	
若嶋　正君	雨龍電力株式會社
若林高行君	三菱鑛業株式會社
渡部正巳君	白基礎工業合資會社
渡邊仁一郎君	北海道炭礦汽船株式會社
渡邊浩行君	新鉄山形保線事務所
太田勝雄君	關東洲廳土木部工務課
長田篤樹君	鉄道省長岡建設事務所
島村幹一君	滿洲國產業部水力電氣建設局
小林莊七郎君	山口縣廳土木課
小林利春君	阪神上水道市町村組合
重野　伋君	
田原知雄君	滿洲合成燃料株式會社
横手　勇君	株式會社鴻池組

土木学會々員數

會員	准員	学生員	特別員	賛助員	合計
3 004	3 406	654	56	21	7 141

會　　告

土木映畫資料懸賞募集

下記規定に依り土木映畫資料を懸賞募集致します，奮て応募して下さい。

1. 内　　容: 土木に關する知識の普及を目的とせる劇映畫，文化映畫の筋又は脚本及實寫，編輯。
2. 形　　式: 必ず梗概（1500 字以内）を附すること。
   必ずしも「シナリオ」の形式に依るを要せず。
3. 応募資格: 一般（必ずしも土木学會々員たるを要せず）。
4. 締　　切: 昭和 13 年 8 月末日。
5. 審　　査: 土木学會文化映畫委員會委員及適當なる專門家に依頼す。
6. 賞　　金: 1 等　100 円　1 名
   2 等　30 円　2 名
   佳作　賞品　若干名
7. 發　　表: 入選者は土木学會誌第 24 卷第 11 號にて發表す。
8. 備　　考: 応募原稿は返却せず。
   入選せる原稿に關する總ての權利は土木学會に屬す。

第 6 回發明展覽會開催

特許局長官より第 6 回發明展覽會開催に關する照會がありましたから御知らせ致します。

會　　期: 昭和 13 年 11 月 2 日～15 日

會　　場: 東京市麴町區丸ノ内 3 丁目府立東京商工奬勵館内

申込期日: 6 月 1 日～30 日

詳細は特許局又は當学會へ御問合せ下さい。

土　木　学　會

會　告

本會々員にて今次の事変に際して出征せられる方は出征中會費免除の手続きを採りますから至急當学會まで御通告下さい。本會は下記応召會員各位の武運長久を祈る。

応召會員氏名

（會員）

青木信夫君　安藤四良君　井上清太郎君　飯田房太郎君　石川與一君
浦田清志君　梅澤景秀君　尾鍵峰夫君　奥田秋夫君　片山文雄君
川島喜一郎君　國澤舜二君　倉田一郎君　小谷金馬君　後藤禎藏君
齋藤四郎君　坂野昇君　篠原武司君　清水雄吉君　瀬能三郎君
田中孝君　富樫凱一君　長友一二君　内藤範壽君　成瀬正成君
丹羽良彦君　西島尙義君　古田泰介君　山岸誠君

（准員）

伊藤一郎君　井内萬治君　井上忠熊君　五十嵐康二君　池戸貫三君
石尾良一君　石倉寛治君　板垣正男君　一之瀬喜驩君　今川周一君
乾市太郎君　岩山末藏君　宇佐美勇司君　宇田倉三君　上原要三郎君
内田襄君　遠藤作次君　小澤辰喜君　大竹源太郎君　大槻眞弘君
大森蕃二君　岡村貞男君　岡本恒熹君　沖田二郎君　奥山幸雄君
加藤情一君　加藤三重次君　鹿熊理三君　片岡市郎君　金澤義之介君
金子輝男君　鎌田昌俊君　蒲原正吉君　神森五郎君　川勝常次郎君
川上正三君　川崎毅三郎君　河田明則君　河原忠次君　河村莊君
木原榮造君　木村壽夫君　龜甲谷貞三君　岸忠男君　北村英太郎君
吉川吉三君　久保正君　熊耳爲男君　栗原太郎君　桑崎正範君
桑原於菟葉君　小久保參次君　小土井善雄君　小林長雄君　小林嘉道君
小牧純尙君　後藤正司君　國分正胤君　近藤愛知君　佐伯重道君
佐伯秀雄君　佐藤導事　佐藤源仁君　佐藤眞一君　齋藤良太君
里吉忠典君　澤田克己君　澤田實君　設樂藤雄君　四十萬小祐君
清水清三君　須藤正利君　杉山光郎君　鈴木駿一郎君　鈴木誠一君
清野一水君　田口完君　田所文男君　田淵榮治君　田村勳君
高井壽吉君　高島三郎君　高野義雄君　高橋咲保君　高橋正一君
竹内一男君　玉井茂男君　筑瀬懋君　對馬正君　月邨德彌君
寺田功君　豊田實君　中津海俊雄君　中村正君　中村春樹君
中村吉光君　永井良男君　永島德君　根井友信君　能登富五郎君
乘富士郎君　橋谷田良平君　日高貞雄君　平井敦君　平野勳君
廣田賢治君　福島公三君　福島保君　福島峰夫君　藤井松雄君
藤森謙一君　藤本輝文君　別所正夫君　堀修一君　堀内恭一君
本德壽雄君　增田正次君　松井宇太郎君　松垣光君　松橋作藏君
松田昌治君　松本敏雄君　的場一郎君　丸山和太郎君　三好雄次郎君
三輪銀吾君　村井義英君　森末進君　安田恒夫君　山内新之助君
山賀忠夫君　山岸正應君　山口信二君　山田安綱君　山中保君
山本三郎君　山本保君　山本芳男君　湯澤貞夫君　吉田時二君
吉田浩君　吉田登君　吉野正範君　和田豐君　渡邊有友君

（学生員）

浦部千尋君　小川九十九君　金出地史朗君　北條稔君　宮崎義成君
森芳太郎君　米澤佳年君　和田正一君

昭和 13 年 5 月 15 日

十木学會

會　　告

御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため，會誌の配布を始め，その他の諸通信が出來ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手數恐れ入りますが，御本人に御注意下さるか本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

會　員

荒川參太郎君	稲葉彌吉君	木村貫一郎君	小林源次君
轟　增能君	山本保之助君		

准　員

和泉高嚴君	池田乙次郎君	池田角太郎君	緒方政雄君
大森鶴吉君	佐藤與吉君	徐三善君	栗田忠治君
小林義雄君	野口金太君	關佳夫君	會我進君
船橋貞一君	高橋理三郎君	本橋二郎君	吉見胤隆君
中野順太郎君	難波壽一君	劉作檀君	濱崎禎四郎君
平本源太郎君	水原馨文君	宮田肇君	横田清治君
石原三郎君	齋藤賢策君	多田安三郎君	

時報，會員の頁記事及工事寫眞募集

◎時報欄は下記內容の記事を掲載する事になつてゐますから適當なる記事の御投稿を御願ひ致します。

A. 土木工事の計畫，設計，施工の進捗，竣功の狀況，金額等のニュース

B. 土木工学界の內外学協會，調査會，委員會等の設立，調査研究事項並に報告其の他會議，催物の簡單なる紹介

C. 官廳，會社，公共團体の組織事業に關するニュース

D. 法規，示方書，規定等の紹介

◎會員の頁は會員諸君の土木工学、土木工事，土木学會，土木技術社會に對する批判，時評，感想，希望等御發表の御利用に充てたものでありますから振つて御投稿を御願ひ致します。

◎工事中又は竣功せる工事の寫眞を募集致します。寫眞にはその工事の簡單なる說明を御記入下さい。

◎掲載の分には薄謝を呈上いたします。

會　　告

來る7月北海道に於て開催の**第2回年次学術講演會**のプログラム下記の如く決定しました。

日　　程

7月15日（金）	午後 6.30～7.00	會長ラヂオ放送
7月16日（土）	午前 8.00～8.25	開會式：開會之辭及會長講演（北海道帝國大学工学部講堂）
	午前 8.30～12.00	講演（工学部講堂）
	午後 1.00～4.00	講演（工学部講堂）
	午後 6.00～9.00	懇親會（札幌市停車場通札幌グランドホテル） 懇親會費 3,50 円
7月17日（日）	午前 8.00～12.00	講演（工学部講堂）
	午後 1.00～5.00	見学（札幌附近）
	A班 (1) 北海製酪組合工場	午後 1.30 同工場前集合
	(2) 大日本ビール札幌工場	午後 3.30 同工場前集合
	B班 (1) 北海道水力藻岩發電所	午後 1.00 工学部前集合
	(2) 北海道廳眞駒内種蓄場	
	(3) 農林省月寒種羊場	見学費 50 錢
	C班 午後 0.44	札幌驛發，見学後小樽解散
	(1) 小樽築港	
	(2) 鉄道省石炭船積設備	
	(3) 北海製罐倉庫會社	見学費 50 錢
自7月17日（日） 至7月24日（日）	見学旅行	
	第1班 樺太方面	（7月17日～7月24日）（8日間）
	第2班 層雲峡，阿寒湖方面	（7月18日～7月20日）（3日間）
	第3班 室蘭方面	（7月18日～7月19日）（2日間）

見学旅行々程豫定

第1班　樺太方面：

	月　日	見学地及經過地	宿泊地
1	7月17日	札幌發（午後 7.48）	車中
2	〃 18日	大泊着	大泊
3	〃 19日	大泊→留多加→幌内炭山（石炭液化工場）→眞岡	眞岡
4	〃 20日	眞岡→久春内→惠須取	惠須取
5	〃 21日	惠須取→敷香（人絹工場，パルプ工場）	敷香
6	〃 22日	國境（見学）	敷香
7	〃 23日	敷香→豐原	豐原
8	〃 24日	豐原→大泊（大泊解散）	

見学費　汽車2等，2割引　100 円

第 2 班　層雲峡，阿寒湖方面：

	月　日	見学地及經過地	宿泊地
1	7 月 18 日	札幌→旭川→層雲峡	層雲峡温泉
2	〃 19 日	層雲峡→野付牛→屈斜路湖→川湯	川湯温泉
3	〃 20 日	川湯→摩周湖→阿寒湖→釧路(釧路解散)	

見学費　汽車 2 等　27 円

第 3 班　室蘭方面：

	月　日	見学地及經過地	宿泊地
1	7 月 18 日	札幌→千歳(醸化場，王子發電所)→支笏湖→苫小牧(王子製紙工場)→白老→登別	登別温泉
2	〃 19 日	登別→輪西(日本製鉄工場，日本製鋼所)→室蘭(石炭船積設備)(室蘭解散	

見学費　11 円

土木学會第 2 回年次学術講演會講演題目々次

開會之辭　土木学會北海道支部長　工博，吉町太郎一

會長講演　土木学會長　辰馬鎌藏

A の部（応用力学）

A-1　會・工・安宅勝：骨組抗圧柱の斜材の作用に就て

A-2　今野彦貞：溢流堰上の水深に就て

A-3　會・工博・小野諒兄，會・工・板倉忠三：平行板蓄電方法による応力計に就て

A-4　會・工博・稲田隆：軸圧と横圧とを受ける直棒の撓み並に熔接長軌條の浮上り挫屈に就て

A-5　會・工博・安藏善之輔：土圧公式と其の図式解法

A-6　准・工・谷本勉之助：平板に小円形孔が開いてゐて，穴に異る物質が詰つてゐるときの，円孔附近の応力分布

A-7　會・工博・井口鹿象：周邊に於ける分布圧力と剪断力との合成作用に因る，固定矩形板の挫屈に就て

A-8　會・工・大坪喜久太郎：水路勾配変目附近の流体運動に就て

A-9　准・工・柴田元良：函型ラーメンの解法（彈性支承上にありて，垂直對稱荷重を受くる場合の解法）

A-10　准・工・横田周平：水門の流出狀況に關する實驗的研究

B の部（測量，道路及都市計畫）

B-1　會・工・武居高四郎：防空上より觀たる都市計畫

B-2　會・工・山口十一郎：愛知縣に於ける道路改良計畫

B-3　准・工・森重一夫：人口の一つの現象の解析（戰鬪の原理を応用せる假想年齢構成曲線の諸性質）

B-4　會・工・大野　博：佐賀國道に於けるコンクリート鋪裝

B-5　會・工・渡邊寛治：航空寫眞測量の實績に就て

B-6　會・工・神尾守次：函館市の復興事業に就て

B-7　會・工・江藤　禮：等変速度に適応する全緩和曲線

B-8　會・工・林猛雄：航空寫眞測量に於ける畫面の重複度に就て

C の部（土木材料及施工法）

C-1　會・工博・小野諒兄：無騒音杭打方法に就て

C-2　准・工・篠原謹爾：セメント糊中の水分と圧縮强度

C-3　准・工・松本光夫：北滿に於ける橋梁下部構造寒中施工に就て

C-4　會・工・禰留並喜：大阪市內地盤沈下及對策

C-5　會・工博・小川敬次郎：　コンクリートの收縮によりて起さるゝ内部反力に就て
C-6　會・工・内山實：　コンクリート内部振動機使用時に於ける振動の波及狀態に就て
C-7　准・岡野幸三郎：　今福線下府附近砂丘切取工事に就て
C-8　會・工・藤田畯五：　木次線坂根隧道附近切取崩壞復舊工事に就て
C-9　准・林英祐：　女川線北上川橋梁井筒沈下工事に就て
C-10　准・工・河野康雄：　豐橋線第5工區土工直轉工に就て
C-11　庄子吉光：　碎石砂利生産施設の一例に就て
C-12　准・工・福島彌六：　新京濱國道多摩川架橋地點の水質試驗と耐鹼性セメントに就て
C-13　會・工・青木楠男：　鉄筋の電氣熔接接手に關する實驗的研究
C-14　會・工・眞井耕象：　壓擊式コンクリート塡充法による鉄筋コンクリート柱の實驗成績（第2報）
C-15　會・工・石田武雄，會・矢野善治，相坂久義：　大阪驛附近鉄道諸建造物の沈下に就て

D の 部（鉄筋コンクリート）

D-1　會・工博・棚橋諒：　彈率比に依らざる鉄筋コンクリート計算式と實驗
D-2　會・工・高橋逸夫：　鉄筋コンクリート桁斷面に於ける中立軸の位置決定に關する實驗（中間報告）
D-3　會・工・武田英吉：　廣範圍の偏心荷重を受ける鉄筋コンクリート矩形斷面鉄筋量決定法
D-4　會・元泰常：　鉄筋コンクリート桁の實地計算上の若干の問題　I. 複鉄筋矩形桁及 T 形桁の經濟的設計法
II. 偏心軸圧力又は曲げモーメント及軸圧力を受ける T 形桁の簡便解法

E の 部（橋梁）

E-1　會・工・成瀨勝武：　桁橋の応力軽減法
E-2　會・工・横道英雄：　施行中の十勝川河西橋架換工事に就て
E-3　會・工・北澤忠男：　2 鉸肋拱橋の応力計算に就て
E-4　會・工・中島　武：　1 径間鉄筋コンクリート跨線橋への一提案
E-5　准・工・岩永義美：　鉄道橋としての鉄筋コンクリート拱の設計に就て
E-6　准・工・大石重成，准・工・宮澤吉弘：　川口線第1只見川橋梁架設計畫に就て
E-7　會・工・酒井忠明：　橋梁トラスの二次応力實用算式に就て

F の 部（鉄道及隧道）

F-1　會・工・古藤猛哉：　乘降場の配列及中間小停車場の 3 型式
F-2　會・工・中矢隆雄：　北海道に於ける鉄道建設工事と其の特殊性に就て
F-3　會・工・土本　基：　鉄道建設線中間停車場設備に就て
F-4　准・工・武内　修：　福山線白神峠隧道工事計畫に就て
F-5　准・工・小田　仁：　大糸線眞那板山隧道直轉工事に就て
F-6　會・工・小田金治：　八幡濱線夜畫隧道工事に就て
F-7　藤本小太郎：　仙山線今坂線に応用せる防雪施設に就て
F-8　武田利雄：　アプト式軌道の保守に就て
F-9　會・工・高橋憲雄：　波狀磨耗を生じた軌條の一再生方法
F-10　准・工・大槻勝雄：　機械聯動裝置挺手減力機に就て
F-11　准・工・酒井立夫：　鉄道線路内の工事に応用したる深礎工法に就て
F-12　准・工・小野一良：　軌條接目遊間に就て
F-13　會・工・松下幹雄：　新潟鉄道局管内に於ける雪害對策に就て
F-14　會・工・佐藤慶次：　新潟附近の貨物輸送に對する各種改良計畫
F-15　會・工・田中茂美：　最近に於ける北海道の石炭事情と港灣施設に就て
F-16　准・工・福田治次：　北海道の主要産物の動きに就て
F-17　會・工・青山武雄：　札幌鉄道局管内の枕木狀勢に就て

F-18 會・工・江藤 智： 函館驛の現況と將來に對する考察
F-19 會・工・坂部勝夫： 線路の凍上と保守に就て
F-20 會・工・兒島重次郎： 諸外國に看る施藥枕木の機械的處理に就て
F-21 會・工・岡部二郎： 降雪地に於ける線路切擴幅員に就て
F-22 會・工・山田二三男： 軌道材料の電蝕狀態に就て
F-23 會・工・立花次郎： 新大里驛の配線に就て
F-24 准・福森宇三郎： 天王寺驛改良工事に就て

G の 部（河工，海工及上下水道）

G-1 會・工・林千秋： 軟弱地盤の上に築設せる防波堤の基礎捨石間に鉄網を敷設せる實績
G-2 會・工博・島崎孝彥： 上水道に於ける殺菌方法に就て
G-3 會・鈴木銀次郎： 緩速濾過法に使用せるポーラスコンクリートスラブの性能，特長及此が濾過池築造費に及ぼす影響
G-4 准・工・北村市太郎： 鉄道省信濃川千手發電所水圧鉄管に就て
G-5 會・原田 碧： 熱海海面埋立工事に就て
G-6 會・工・山口十一郎： 木曾川河水統制の必要
G-7 會・工・北澤貞吉： 下水流量計としてのベンチユリーフリニームに就て
G-8 會・工・淺野 好： 華北に於ける水利上の諸問題に就て
G-9 會・工・川上留吉： 港灣工事施行に就て
G-10 會・元泰常： 堤防の經濟的高さ或は經濟的川幅に就て
G-11 會・工・岩岡武博： 聖臺土堰堤工事に就て
G-12 會・坂元左馬太： 埋立に依る大阪の海岸線移動に就て
G-13 會・工・松田全弘： 發電用貯水池計畫に於て考慮すべき諸條件
G-14 會・工・栓野辰治： 雨龍川水力發電工事計畫概要
G-15 會・工・野瀨正人： 雄物川新水路の通水に就て
G-16 准・工・野田周平： 砂防堰堤水叩部の構造に關する實驗的研究

會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

會費	會員種格	會費年額	第1期分 (1月~6月)	第2期分 (7月~12月)
	會員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納期 第1期分：3月　第2期分：9月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は**振替口座東京 16828 番**へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄爲替その他の方法に依り御送金相成たし。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下されたし。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滯納者として遺憾ながら定款第2章第14條第1項に依り會誌の配布を停止せられます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月1日に發行し漏なく配布致しますから，未着の場合には一応本會に御照會下さい。發行後數ケ月經過しての照會は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY)

VOL. XXIV, NO. 6, JUN. 1938.

CONTENTS.

Page

Proceedings of the Society. 45

Address.

The Waterworks in Central China.

By Tomihisa Iwasaki, Dr. Ing., Member. 561

Papers.

Report of the Construction of the Agatsuma-River, Haramati Water Power Plant.

By Kaitirō Yamakura, C. E., Member. 571

Notes on Matters of Interest. 591

Abstracts of Selected Articles. 625

Current Notes. 671

Our Members Say. 679

Engineering Literatures 685

Patent News. 691

New Publications. 693

OFFICE

No. 6, 3-TYŌME, MARUNOUTI, KŌZIMATI-KU, TŌKYŌ, JAPAN.

既刊會誌殘部內譯

（* は殘部有るものを示す）

卷＼號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額（1部）（円）
5	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
6	—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
7	—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9	*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10	—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11	—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12	—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
13	—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
14	*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17	*	*	*	*	*	*	*	*	—	—	*	*	1.00
18	—	—	—	*	*	*	*	*	*	*	*	—	1.00
19	*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	—	*	1.00
20	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	*	—	1.00
21	—	—	—	*	*	—	*	—	*	—	*	*	1.00
22	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
23	—	*	—	*	—	—	—	*	*	*	*	*	1.00
24	—	*	*	—	*								1.00

第 20 卷第 12 號（創立 20 周年記念號）…… 1.50
第 21 卷第 7 號（會誌索引付）…… 1.30
震害調査報告書 (1, 2, 3) …… 18.00
応用力学聯合大會講演集 …… 1.00
鉄筋コンクリート標準示方書 } 同 上 解 説 } …… 1.00
土木工学論文抄錄 …… 3.50
土木学會誌索引（第 1 卷第 1 號—第 20 卷第 12 號）…… 0.50
昭和 9 年關西地方風水害調査報告 …… 1.80
土木工学用語集 …… 2.50（送料別）

上記殘部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

廣告料

普通廣告	1回 1頁	35円	1回半頁	20円
指定廣告	裏表紙3面對向及廣向初頁		1回1頁	40円
	裏表紙3面		1回1頁	70円
	色アート		1回1頁	60円

○指定廣告は凡て1年継続申込のものに限り取扱ふものとす

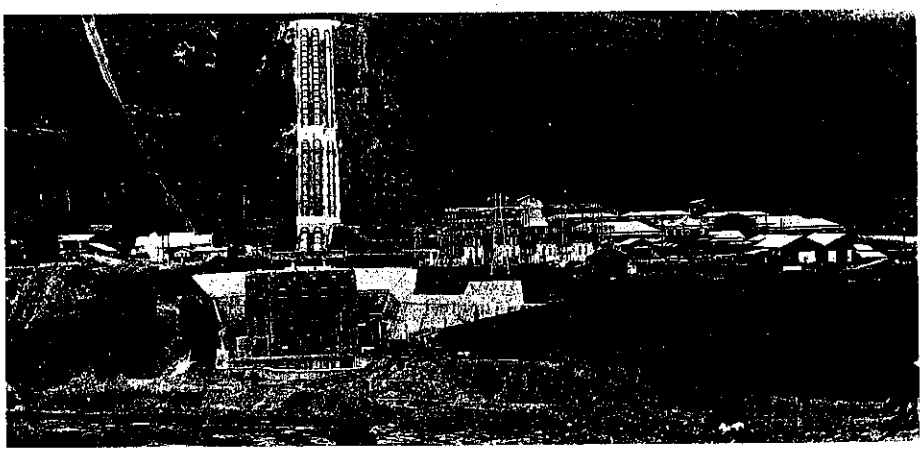
○會員自身の廣告に對しては總て上記料金の1割引とす

○同一廣告の連続掲載申込に對しては 1 年 4 回以上 1 割引とす

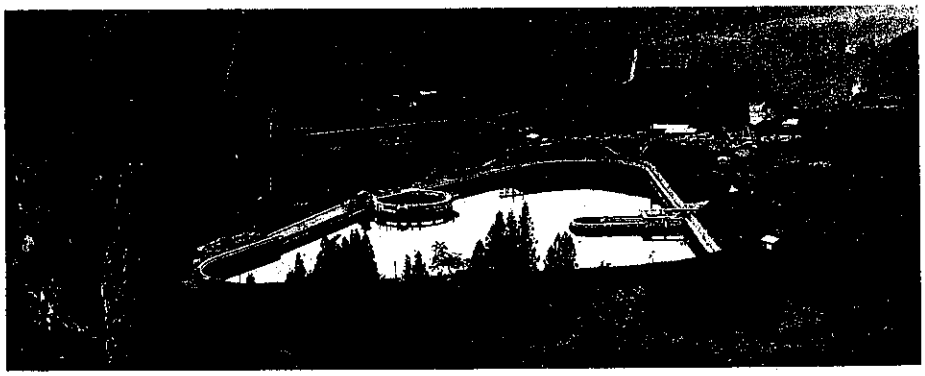
○廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

吾妻川原町發電所

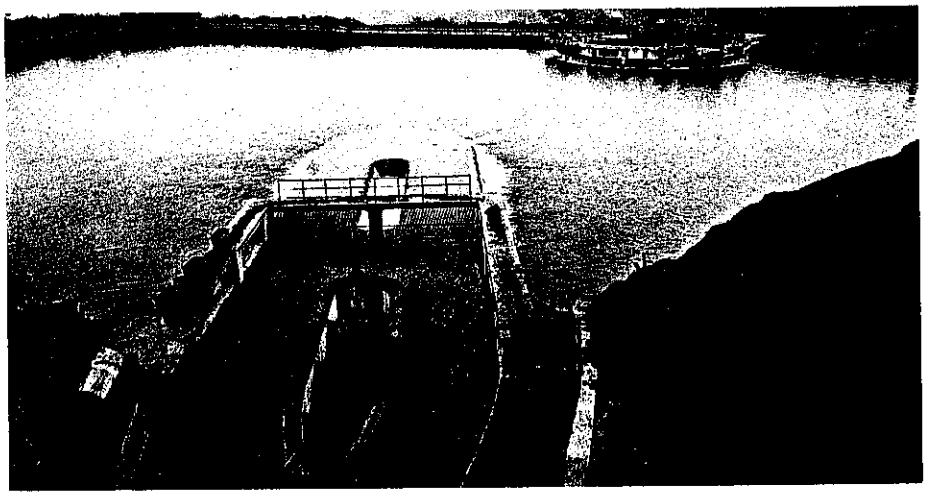
發電所及附近全景



調整池全景



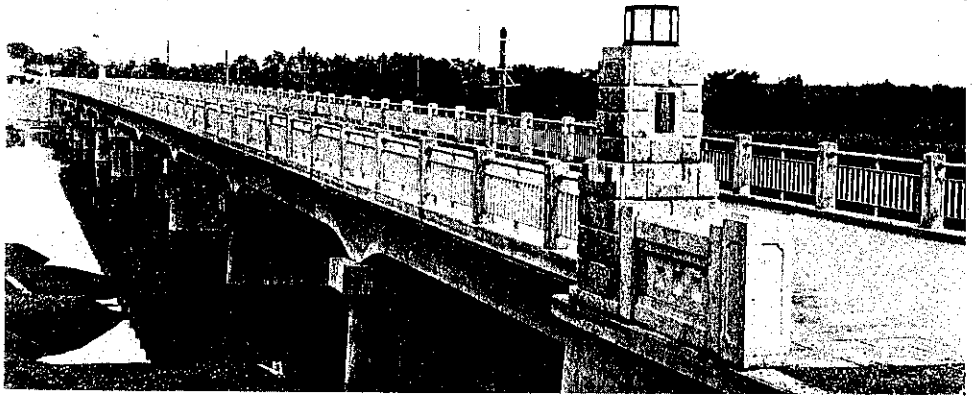
導水路出口より取水塔を望む



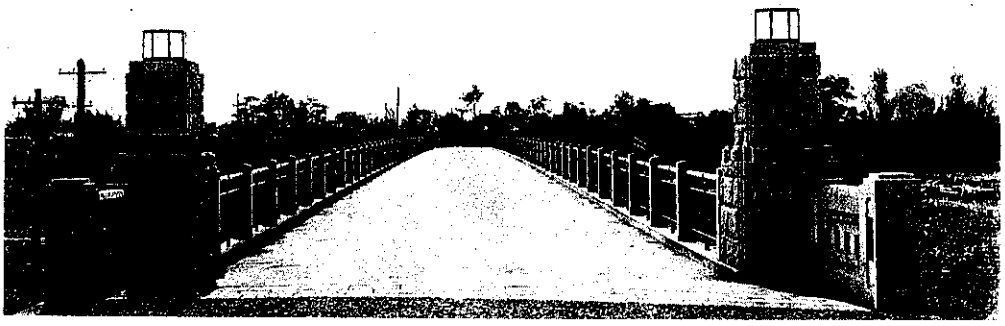
(論說報告欄參照)

日開谷橋工事概要

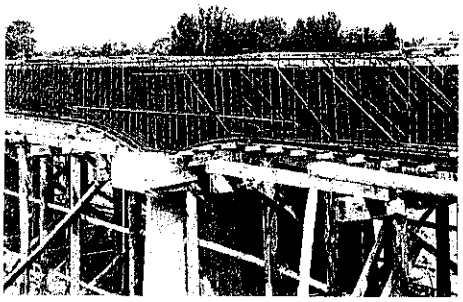
竣功後の全景



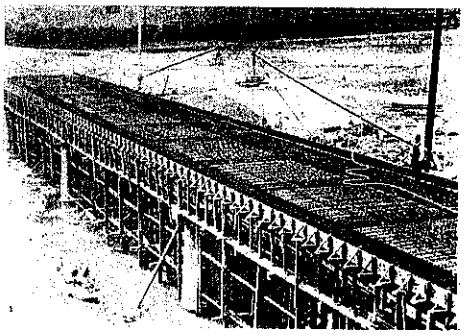
竣功後の正面



固定せる桁一部の配筋狀態



床版配筋狀態



位置： 府縣道市場脇町線阿波郡久勝村大字勝命
設計荷重：道路構造令第 3 種， 型式：丁型鉄筋コンクリート連続桁， 橋長：171.6 m， 有效幅員：5.5 m， 径間：15.6 m, 11 連内 3 連々続 3, 2 連々続 1， 橋臺：鉄筋コンクリート造 2 基， 橋脚：鉄筋コンクリート造 10 基， 橋面：鉄筋コンクリート床版上厚 5 糎コンクリート鋪裝， 高欄及親柱：平鉄及瓦斯管組分せ親柱花崗切石， 縱断勾配：1/220 拋物線， 横断勾配：1/45 拋物線， 附帶工事：右岸取付道路延長 61.4 m， 左岸延長 87.4 m， 法留石張及玉石コンクーリト路面工砂利敷， 工事用主要材料：鉄筋 93.13 t， セメント 9 767 袋， 高欄用鋼材 7.16 t， 使用職工並人夫 16 739 人， 實施工費：49 945.65 円， 内譯：橋梁費， 42 647.19 円， 取合道路改良費 5 112.38 円， 器具機械費 1 475.68 円， 雜費 710.40 円， 工事施工の方法：縣直營， 工期：起工 昭和 11 年 5 月 6 日，竣功 昭和 12 年 9 月 8 日